話す，書く，文法指導を自在につなぐ Creative Writing（2）

授業レポート CLASS REPORT

加藤京子　Kato Kyoko　（兵庫県三木市立緑が丘中学校）

1. 関係代名詞を使って書く―まず１文

今回は文法指導を意識したCreative Writing（以下CWと表記）の活動をご紹介します。

最初にご紹介するのは関係代名詞のCWです。関係代名詞のCWは，文の前半を与えて後半を自由に作文させることから始めます。

まずは，導入から練習までの間にさまざまな文例を与えます。例えば，Murasaki Shikibu is the woman who wrote Genji Story about 1000 years ago. または Murasaki Shikibu is the woman who worked for the empress as her teacher. などの文例を出し，who を含む後半は幾通りにも書くことができること，who の中はなるべく長く複雑に作文すること，後へ後へと句を足していけることを理解させておきます。

次に，個人またはグループで，与えられた人物について聞き手に「なるほど」と言わせるような文を，関係代名詞を用いて完成させます。いくつか用意した前半の文をくじ引きで引かせてもよいでしょう。その際，who の中身を was very famous などと書かせてはいけません。関係代名詞を用いて書くときは，それを用いるに値する文でなければならないことを強調します。

文ができたら，各々が一番工夫したと思う文を黒板に書いて発表させ，それぞれの工夫した点を褒めた上で，さらによくするための語彙や句を与えます。

次時の最初は，絵や写真を見せながら，同じように文の後半を自由に作る活動をオーラルで行います。人物は前時の学習で用いたものでもかまいません。“Mother Teresa is the person” と言って生徒ひとりを指名し，後半を続けさせます。“who worked for the poor people” で止めた生徒には “Where?” と投げかけ，もう一度最初から言わせて褒めるようにします。多少間違えても，他者とは異なる文を作ろうとする姿勢を褒めることが大切です。“the person who built homes for the poorest people in India and all over the world” や “the person who loved and helped poor and sick people like their mother” などが出れば，大いに褒めるようにします。

2. その文法にふさわしい文を書かせる

関係代名詞を使うなら，使うにふさわしい文でなければならない，という指導は３年生で急に始めることではありません。１年生のときから，形だけではなく「ふさわしさ」の観点からも文法指導をしておくことが大切です。例えば過去形で，生徒が I enjoyed baseball. と書けば，“With who?” “Where?” “When? Last Sunday?” などと問いかけ，より詳しく書かせるようにします。

I like tennis. / My father went to Kobe. といった３語文や３語文に等しい文を書くことは，なるべく早く卒業させたいものです。そんな情報に乏しいつまらない文ではなく，おもしろく饒舌に，または書きたいことを率直に書くことがよりよいwriting です。そのためのキーワードは自己開示，独自性，具体性であり，たとえ１行文であれ，生徒たちが書く文がより興味深いものになるよう，この３点からアドバイスを与えるようにしています。

3. 関係代名詞を使って３文で書く

次の段階は３文作文です。まずは次のような見本を与えます。

I have a friend who lives in Hirosaki, Aomori. She sends me a lot of apples every fall. I want to visit Hirosaki to see her some day.

この例に倣って，生徒たちには１文目に関係代名詞を使った３文程度の作文をさせます。生徒たちの提出した作文を添削する際，よい例，悪い例，共通する間違いを取り上げたワークシートを作り，次時に指導します。

以下は，そこで用いた生徒作品例の一部です（個人が特定されないよう，内容を多少変えました）。生徒たちには，それぞれの作文はそれでよいかどうか，おかしい点があるならどこがおかしいかを考えさせたあと，それぞれについて解説をしました*。

① I have a brother who played baseball in Miki Kita High School. I hope that he will give me a lot of money.
② I have a friend who is a basketball player. But he is not good at basketball. So he practices basketball to play better.
③ I have a grandfather who has visited many countries to take pictures. He is very kind and a very good photographer. I want to go to Germany with him as his assistant.
④ I have a friend who likes cats very much. I always go to school with her. She can play tennis well. She is a good friend for me.　（解説は最後に記載）

1，2年生からディスコースを考えるよう指導していますが，何行でも書いてよいときと異なり，いくらでも書ける内容を３行にまとめなければいけないときはまた違う難しさがあるので，失敗もします。生徒たちは直感的にかなり的確に判断できるようなので，生徒たちに考えを発表させながら，文と文の関係を保って書くことの大切さを指導しました。

関係代名詞の指導というと，関係代名詞を含む文ばかり練習させがちですが，このように関係代名詞を含む文が文脈の中でどう使用されるべきかについても考えさせるようにしています。

4. 文法を文脈の中で使用させる

前述のように，コミュニケーションを支える文法使用は文脈から切り離せません。１文単位の指導に終わらず，文脈の中での文法指導が必要です。

現在完了の指導でも同様です。“Have you ever been to Tokyo?” とたずね，“Yes.” の答えのあとに，“Have you visited Tokyo Tower?” “Have you eaten *monjayaki*?” などと重ねて現在完了形で質問しないよう指導します。続く質問は “When did you go there?” “What did you do there?” “How was it?” など，過去形であるべきだからです。一問一答練習だけでは，こういった指導はできません。CW として過去にした経験についての対話文を創作させ，現在完了形と過去形の使用について丁寧に添削してやり，スキット発表をさせると，生徒たちは互いの理解を深め，楽しみながら学んでいます。

5. 旅行パンフレットの作成

２年生の教科書の多くは，助動詞 must / should / can / will, There is / are ～, I think that ～ といった文法事項を扱います。旅行パンフレットを作成させれば，これらの文法を楽しく使う学習ができます。

写真１は，1994 年に初めて生徒に取り組ませた旅行パンフレット作品です。英語は週４時間だったので，２年生の夏休みの課題とし，B4 サイズの紙を２枚以上使うという条件で作成させました。

写真１　旅行パンフレット（生徒作品）

週３時間になってからは３年の夏休みの課題とし，用紙サイズを自由にして取り組ませました。歩きながら使うという設定の手のひらサイズのガイド，何ページもある世界一周旅行ガイドブック，１枚で大きく広げて使うマップ型，旅物語の紙芝居など，生徒たちは自由な発想で作成していました。

現在は，教科書の文法事項の配列を考慮し，２年生の冬休みに作成させています。先輩たちの工夫に満ちたパンフレットを見せたあと，「みんなは冬休みに作るのだから，創作ノート（後述）見開き２ページに作成しよう」と説明。冬休みは短く，作成の負担が大きいと生徒は作品作りを楽しめないので，こたつに入って家族としゃべりながらでもできるサイズにしました。

6. 活動をスムーズにする工夫

まとまった文が書けるようになったからといって，すぐに作品作りができるようになるわけではありません。生徒がスムーズに，また楽しく課題に取り組めるようにする工夫をご紹介します。

① 見本とマニュアル

課題を与えるとき，モデルになる作品がない場合は必ず教師が実際に作品を作ります。生徒たちは見たことのないものは作れません。また教師自身も作ってみて，語彙や文法的に無理のない課題かどうか，おもしろいかどうかを確かめておくと，実効あるマニュアル作りとアドバイスができます。

マニュアルにはタイトルや見出しの付け方，取り上げたい情報のジャンル分け，助動詞を使った名物や人気スポットのお薦め表現，There is / are ～，I think that ～，など，教科書に合わせて使えそうな表現をまとめておきます。説明に用いる写真は，旅行代理店のパンフレットやパソコンなどを利用するものとします。ただし旅行代理店へは保護者と一緒に行き，丁寧に許可を得てからパンフレットをもらうよう，マナーも教えておきます。もちろん自分で絵を描いてもよいことにします。紹介するのは国内，国外を問わず自由にしましたが，有名な観光地にある学校なら自分の街の観光ガイド作成を競わせてもおもしろいと思います。

写真２は，マニュアルをもとに作成された，美術館，ファッションのミラノ，ゴンドラを紹介するカラフルな色調のイタリア紹介です。最後に「真実の口」自身が語るという楽しい工夫もあります。

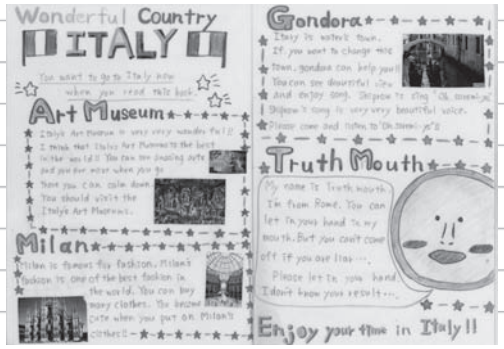

写真２　イタリア紹介（生徒作品）

②「創作ノート」の活用

前述の通り，生徒たちは「創作ノート」と名づけたB5サイズの無地のノートを持っています。１年生の冬休み前に渡し，折々に英語で創作をさせています。このノートには過去の作品が詰まっているので，新しい作品を書くとき，前に書いた内容や教師のアドバイス，励ましを参照することができます。この生徒たちは１年生の冬休みに好きな外国をひとつ選んで「国紹介」，３学期には「旅行先の外国からの手紙」を書いていますが，２年生で旅行パンフレットの課題を出したとき，「先生，『国紹介』のような感じで書いたらいいのね」と嬉しそうに言ってきた生徒がいました。生徒たちはこのノートをポートフォリオとして利用しているのです。定期的に課題を出すほか，家庭で書きたいときには書くことを奨励しているので，２年生の３学期にほとんどの生徒が２冊目を使い始めるようになります。

次回は，これらの実践をご紹介する予定です。

*3 文作文（p.17）の解説
① １文目と２文目の間にもう１，２文必要。例えば「彼は将来プロ野球界で活躍し成功するだろう。」
② who の中がつまらない。具体的な情報がない。３行だから否定的なことは書かなくてよい。
③おもしろい。しかし，第３文の Germany が唐突。「祖父はドイツにはまだ行ったことがない。ドイツに行くときは…」が必要。
④情報がばらばら。まとまりのある内容を選んで書くとよい。